

平成 23 年「社会生活基本調査」結果の概要

平成 25 年 11 月

札幌市市長政策室政策企画部企画課

平成23年10月20日現在で実施した平成23年「社会生活基本調査」の結果がまとまりましたので概要を紹介いたします。なお、この結果は、総務省統計局「社会生活基本調査」の調査票情報を、札幌市内に住んでいる15歳以上人口を対象に、独自集計したものです。また、抽出結果のため全数調査から得られるであろう数値との誤差がありますのでご注意ください。調査の概要は最終ページを参照して下さい。

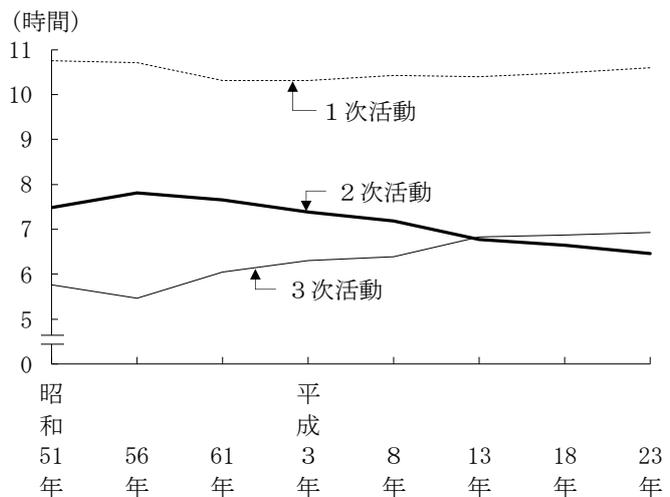
1 1日の生活時間の概要

週全体の2次活動時間は6時間28分で、最も長かった昭和56年と比べると1時間21分減少（第1表、第1図）

札幌市内に住んでいる15歳以上人口について、1日の生活時間の週全体平均（以下「週全体」という。）をみると、1次活動時間（睡眠、食事など生理的に必要な活動）は10時間36分、2次活動時間（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）は6時間28分、3次活動時間（余暇活動など）は6時間56分となっている。

昭和51年以降の生活時間の推移をみると、1次活動時間は平成3年以降、緩やかではあるが増加傾向で推移している。2次活動時間は、昭和56年の7時間49分以降減少が続いており、平成23年は、18年と比べると11分の減少、最も長かった昭和56年と比べると1時間21分の減少となっている。3次活動時間は、昭和56年の5時間28分以降増加が続いており、平成13年には初めて2次活動時間を上回った。23年は、18年と比べると4分の増加、最も短かった昭和56年と比べると1時間28分の増加となっている。

第1図 1日の生活時間の推移（週全体）



<資料> 総務省統計局、市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

2次活動時間の男女差は若干拡大（第1表）

「週全体」の生活時間を男女別にみると、1次活動時間は、男性が10時間25分、女性が10時間44分、2次活動時間は、男性が6時間35分、女性が6時間24分、3次活動時間は、男性が7時間、女性が6時間52分となっている。

男女別に平成18年と比べると、1次活動時間は、男性が3分の増加、女性が9分の増加、2次活動時間は、男性が7分の減少、女性が12分の減少、3次活動時間は男性が3分の増加、女性が3分の増加となっている。

1次活動時間は男性よりも女性が長く、18年と比べると男女差は13分差から19分差に拡大した。2次活動時間は女性よりも男性が長く、男女差は6分差から11分差に拡大した。3次活動時間は、女性よりも男性が長く、男女差は8分差で変わらなかった。

第1表 男女別1日の生活時間の推移（週全体）

（単位 時間、分）

行動の種類	昭和51年	56年	61年	平成3年	8年	13年	18年	23年
1次活動	10.45	10.43	10.19	10.19	10.26	10.24	10.29	10.36
2次活動	7.29	7.49	7.39	7.23	7.11	6.46	6.39	6.28
3次活動	5.46	5.28	6.03	6.18	6.23	6.50	6.52	6.56
男								
1次活動	10.43	10.43	10.15	10.08	10.16	10.14	10.22	10.25
2次活動	7.26	8.01	7.57	7.38	7.28	6.58	6.42	6.35
3次活動	5.51	5.16	5.48	6.14	6.16	6.48	6.57	7.00
女								
1次活動	10.48	10.43	10.22	10.29	10.35	10.34	10.35	10.44
2次活動	7.32	7.37	7.22	7.09	6.56	6.34	6.36	6.24
3次活動	5.41	5.40	6.16	6.22	6.29	6.52	6.49	6.52

<資料> 総務省統計局、市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

2 行動の種類別生活時間の推移

「仕事」時間は減少傾向、「家事関連」時間及び「休養等自由時間活動」時間は増加傾向で推移（第2表、第2図）

行動の種類別に週全体の1日の生活時間をみると、1次活動時間では「睡眠」が7時間41分、トイレ、洗顔等の「身の回りの用事」が1時間19分、「食事」が1時間35分となっている。

2次活動時間では、「通勤・通学」が27分、「仕事」が3時間19分、「学業」が21分、家事や育児などの合計である「家事関連」が2時間21分となっている。

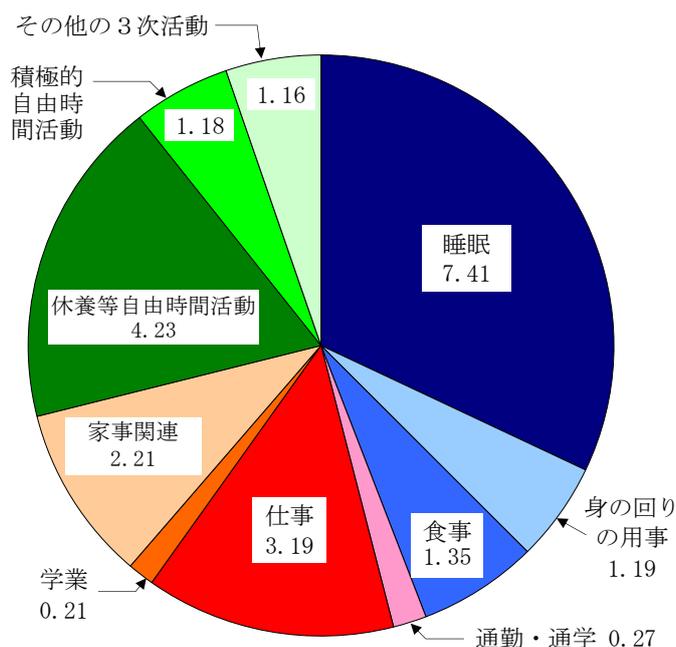
3次活動時間では、テレビの視聴やくつろぎなどの合計である「休養等自由時間活動」が4時間23分、スポーツやボランティア活動などの合計である「積極的自由時間活動」が1時間18分などとなっている。

行動の種類別に推移をみると、2次活動時間の「仕事」は、昭和56年以降減少傾向が続いており、平成23年は、最も長かった昭和56年と比べると約1時間減少している。

3次活動時間の「休養等自由時間活動」及び「積極的自由時間活動」は、51年以降増加傾向で推移している。また、「交際・付き合い」は、平成13年以降減少が続いている。

近年の推移をみると、「通勤・通学」、「仕事」及び「交際・付き合い」は減少傾向、「家事関連」、「休養等自由時間活動」及び「積極的自由時間活動」は増加傾向となっている。

第2図 行動の種類別週全体の生活時間（平成23年）



注：第2表参照。その他の3次活動は、「移動（通勤・通学を除く）」、「交際・付き合い」、「受診・療養」及び「その他」の合計時間である。
 <資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第2表 行動の種類別生活時間の推移（週全体）

(単位 時間. 分)

行動の種類	昭和51年	56年	61年	平成3年	8年	13年	18年	23年
1 次 活 動	10.45	10.43	10.19	10.19	10.26	10.24	10.29	10.36
睡眠	8.13	8.01	7.51	7.48	7.43	7.41	7.44	7.41
身の回りの用事	0.57	0.52	0.56	1.03	1.08	1.11	1.11	1.19
食事	1.35	1.49	1.31	1.29	1.34	1.32	1.34	1.35
2 次 活 動	7.29	7.49	7.39	7.23	7.11	6.46	6.39	6.28
通勤・通学	0.30	0.41	0.36	0.35	0.30	0.31	0.28	0.27
仕事	3.59	4.21	4.11	4.11	3.52	3.46	3.40	3.19
学業	0.32	0.29	0.35	0.31	0.29	0.26	0.25	0.21
家事関連 ¹⁾	2.28	2.18	2.15	2.04	2.20	2.04	2.06	2.21
3 次 活 動	5.46	5.28	6.03	6.18	6.23	6.50	6.52	6.56
移動（通勤・通学を除く）	0.13	0.14	0.27	0.26	0.28	0.34	0.32	0.31
休養等自由時間活動 ²⁾	3.39	3.43	3.47	3.49	3.59	4.09	4.08	4.23
積極的自由時間活動 ³⁾	0.56	0.55	0.56	1.11	1.02	1.14	1.17	1.18
交際・付き合い	0.33	0.26	0.33	0.34	0.31	0.32	0.25	0.19
受診・療養	0.09	0.04	0.09	0.09	0.06	0.05	0.11	0.09
その他	0.16	0.05	0.09	0.11	0.18	0.15	0.19	0.17

注：1) 「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間。 2) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」及び「休養・くつろぎ」の合計時間。 3) 「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」及び「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間。

<資料> 総務省統計局、市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

3 男女別生活時間

男女とも「仕事」時間は減少傾向、「家事関連」時間及び「休養等自由時間活動」時間は増加傾向で推移（第3表、第3図）

週全体の1日の生活時間を男女別にみると、1次活動時間の「睡眠」は、男性が7時間47分、女性が7時間36分、「身の回りの用事」は、男性が1時間7分、女性が1時間29分となっている。

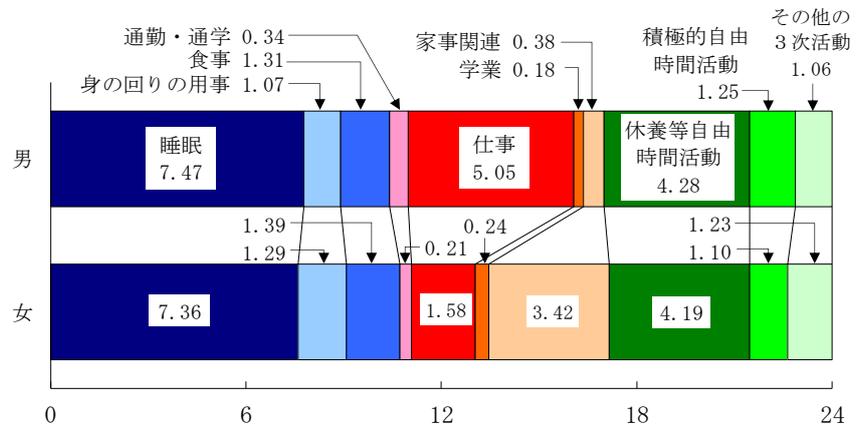
2次活動時間の「仕事」は、男性が5時間5分、女性が1時間58分で、女性より男性が約3時間長くなっている。一方で、「家事関連」は、男性が38分、女性が3時間42分となっており、男性より女性が約3時間長くなっている。

3次活動時間の「休養等自由時間活動」は、男性が4時間28分、女性が4時間19分、「積極的自由時間活動」は、男性が1時間25分、女性が1時間10分となっており、それぞれ女性より男性が若干長くなっている。

平成18年と比べると、「仕事」は、男性は3分の増加とほぼ横ばいで推移したもの、女性は25分の減少と大きく減少しており、男女差は2時間39分から3時間7分へと拡大している。

また、近年の推移をみると、「仕事」の減少傾向、「家事関連」及び「休養等自由時間活動」の増加傾向は、男女共通の傾向となっている。

第3図 男女、行動の種類別週全体の生活時間（平成23年）



注： 第3表参照。その他の3次活動は、「移動（通勤・通学を除く）」、「交際・付き合い」、「受診・療養」及び「その他」の合計時間である。
 <資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第3表 男女、行動の種類別生活時間の推移（週全体）

（単位 時間、分）

行動の種類	総数			男			女		
	平成13年	18年	23年	13年	18年	23年	13年	18年	23年
1 次活動	10.24	10.29	10.36	10.14	10.22	10.25	10.34	10.35	10.44
睡眠	7.41	7.44	7.41	7.44	7.49	7.47	7.38	7.39	7.36
身の回りの用事	1.11	1.11	1.19	0.59	1.01	1.07	1.22	1.19	1.29
食事	1.32	1.34	1.35	1.31	1.31	1.31	1.34	1.37	1.39
2 次活動	6.46	6.39	6.28	6.58	6.42	6.35	6.34	6.36	6.24
通勤・通学	0.31	0.28	0.27	0.40	0.36	0.34	0.23	0.21	0.21
仕事	3.46	3.40	3.19	5.22	5.02	5.05	2.15	2.23	1.58
学業	0.26	0.25	0.21	0.24	0.31	0.18	0.27	0.20	0.24
家事関連 ¹⁾	2.04	2.06	2.21	0.31	0.33	0.38	3.30	3.32	3.42
3 次活動	6.50	6.52	6.56	6.48	6.57	7.00	6.52	6.49	6.52
移動（通勤・通学を除く）	0.34	0.32	0.31	0.34	0.31	0.28	0.34	0.33	0.33
休養等自由時間活動 ²⁾	4.09	4.08	4.23	4.03	4.07	4.28	4.15	4.09	4.19
積極的自由時間活動 ³⁾	1.14	1.17	1.18	1.25	1.28	1.25	1.07	1.07	1.10
交際・付き合い	0.32	0.25	0.19	0.31	0.21	0.16	0.32	0.29	0.21
受診・療養	0.05	0.11	0.09	0.02	0.12	0.05	0.08	0.09	0.12
その他	0.15	0.19	0.17	0.14	0.17	0.17	0.16	0.21	0.17

注： 1) 「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間。 2) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」及び「休養・くつろぎ」の合計時間。 3) 「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」及び「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間。

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

4 曜日別生活時間

「平日」の「仕事」時間は減少、「土曜日」及び「日曜日」では増加（第4表、第4図）

曜日別に主な活動時間をみると、「睡眠」は、「平日」が7時間30分、「土曜日」が8時間、「日曜日」が8時間21分となっており、「平日」に比べ「日曜日」は51分長くなっている。

「仕事」は、「平日」が3時間50分、「土曜日」が2時間38分、「日曜日」が1時間25分となっており、「平日」に比べ「日曜日」は2時間25分短くなっている。

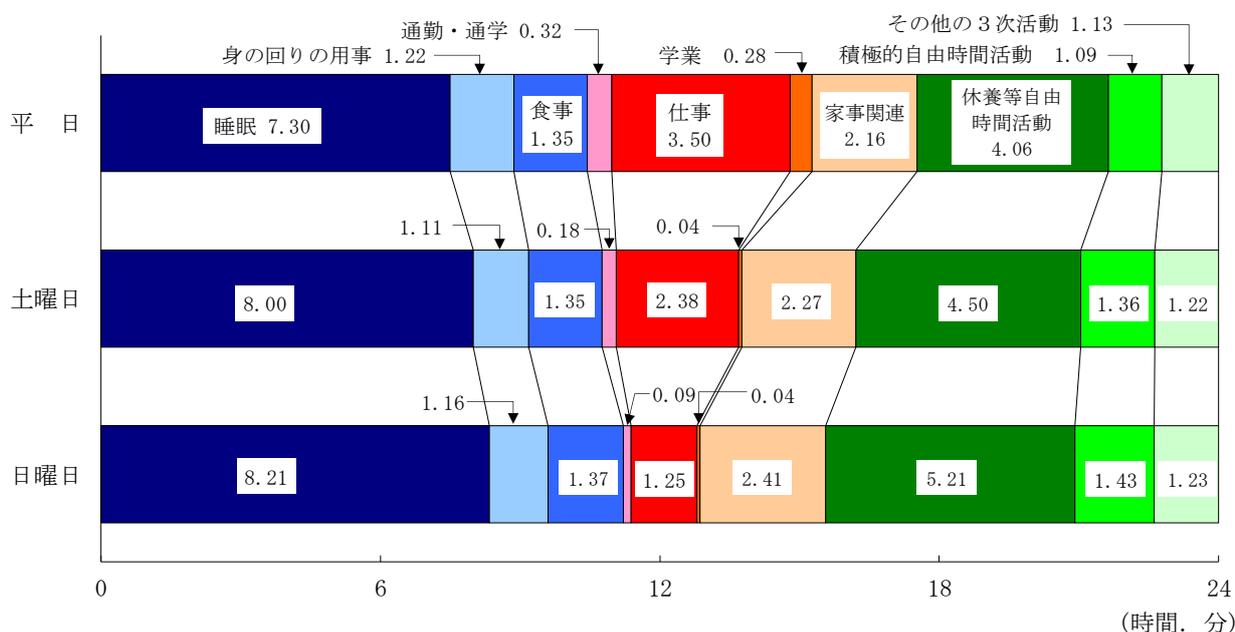
「家事関連」は、「平日」が2時間16分、「土曜日」が2時間27分、「日曜日」が2時間41分となっており、「平日」に比べ「日曜日」は25分長くなっている。

「休養等自由時間活動」は、「平日」が4時間6分、「土曜日」が4時間50分、「日曜日」が5時間21分となっており、「平日」に比べ「日曜日」は1時間15分長くなっている。

「積極的自由時間活動」は、「平日」が1時間9分、「土曜日」が1時間36分、「日曜日」が1時間43分となっており、「平日」に比べ「日曜日」は34分長くなっている。

「仕事」を曜日別に平成18年と比べると、「平日」は34分の減少、「土曜日」は5分の増加、「日曜日」は16分の増加となっている。また、「平日」と「土曜日」の差は1時間51分から1時間12分に、「平日」と「日曜日」の差は3時間15分から2時間25分に縮小しており、平日に勤務し、土曜日・日曜日を週休日とする勤務形態は、相対的に減少していると推測される。

第4図 曜日、行動の種類別生活時間（平成23年）



注： 第4表参照。その他の3次活動は、「移動（通勤・通学を除く）」、「交際・付き合い」、「受診・療養」及び「その他」の合計時間である。

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第4表 男女、曜日、行動の種類別生活時間の推移

(単位 時間、分)

行 動 の 種 類	平 日			土 曜 日			日 曜 日		
	平成 13年	18年	23年	13年	18年	23年	13年	18年	23年
総 数									
1 次 活 動	10.11	10.14	10.27	10.41	10.50	10.46	11.12	11.20	11.13
睡眠の回りの用事	7.29	7.32	7.30	7.57	8.02	8.00	8.24	8.24	8.21
食事	1.11	1.09	1.22	1.10	1.12	1.11	1.11	1.17	1.16
食	1.31	1.33	1.35	1.34	1.37	1.35	1.37	1.40	1.37
2 次 活 動	7.33	7.30	7.05	5.24	5.17	5.27	4.13	3.50	4.20
通勤・通学	0.37	0.34	0.32	0.20	0.18	0.18	0.11	0.08	0.09
仕事	4.28	4.24	3.50	2.29	2.33	2.38	1.34	1.09	1.25
家事	0.32	0.31	0.28	0.15	0.14	0.04	0.08	0.09	0.04
家事関連 ¹⁾	1.56	2.01	2.16	2.19	2.12	2.27	2.21	2.25	2.41
3 次 活 動	6.16	6.16	6.28	7.56	7.53	7.47	8.35	8.49	8.27
移動(通勤・通学を除く)	0.29	0.27	0.28	0.47	0.42	0.36	0.49	0.50	0.37
休養等自由時間活動 ²⁾	3.53	3.47	4.06	4.34	4.43	4.50	5.06	5.16	5.21
積極的自由時間活動 ³⁾	1.04	1.07	1.09	1.37	1.33	1.36	1.41	1.51	1.43
交際・付き合	0.29	0.22	0.17	0.34	0.35	0.24	0.41	0.29	0.24
受診・療	0.06	0.13	0.11	0.05	0.05	0.06	0.01	0.03	0.02
その他	0.14	0.20	0.17	0.17	0.15	0.16	0.17	0.20	0.20
男									
1 次 活 動	10.01	10.05	10.11	10.28	10.43	10.45	11.05	11.23	11.16
睡眠の回りの用事	7.33	7.35	7.32	7.57	8.12	8.14	8.26	8.36	8.39
食事	0.58	1.00	1.09	1.01	0.59	1.02	1.03	1.10	1.01
食	1.30	1.30	1.30	1.31	1.32	1.30	1.35	1.37	1.36
2 次 活 動	8.01	7.46	7.39	5.14	5.01	4.50	3.22	3.02	3.02
通勤・通学	0.47	0.44	0.41	0.28	0.22	0.23	0.13	0.10	0.09
仕事	6.21	6.02	6.03	3.51	3.32	3.39	1.58	1.33	1.43
家事	0.30	0.38	0.24	0.13	0.17	0.03	0.07	0.10	0.03
家事関連 ¹⁾	0.24	0.23	0.31	0.42	0.50	0.43	1.04	1.09	1.07
3 次 活 動	5.58	6.09	6.10	8.17	8.17	8.26	9.33	9.35	9.42
移動(通勤・通学を除く)	0.27	0.25	0.26	0.48	0.42	0.29	0.53	0.54	0.36
休養等自由時間活動 ²⁾	3.36	3.41	4.00	4.43	4.47	5.13	5.37	5.34	5.59
積極的自由時間活動 ³⁾	1.10	1.13	1.08	1.53	1.55	1.56	2.04	2.17	2.19
交際・付き合	0.29	0.18	0.13	0.33	0.35	0.26	0.42	0.23	0.23
受診・療	0.02	0.15	0.06	0.04	0.06	0.05	0.01	0.04	0.02
その他	0.12	0.18	0.16	0.17	0.11	0.16	0.16	0.23	0.23
女									
1 次 活 動	10.21	10.22	10.38	10.52	10.57	10.47	11.19	11.18	11.11
睡眠の回りの用事	7.26	7.29	7.29	7.57	7.53	7.48	8.22	8.14	8.04
食事	1.23	1.18	1.31	1.18	1.23	1.19	1.18	1.22	1.28
食	1.32	1.35	1.39	1.37	1.41	1.40	1.39	1.42	1.38
2 次 活 動	7.05	7.14	6.40	5.32	5.31	6.00	5.01	4.33	5.31
通勤・通学	0.28	0.25	0.25	0.14	0.15	0.13	0.09	0.06	0.10
仕事	2.40	2.51	2.11	1.15	1.41	1.43	1.11	0.48	1.09
家事	0.33	0.24	0.31	0.17	0.12	0.05	0.08	0.08	0.05
家事関連 ¹⁾	3.25	3.34	3.33	3.47	3.24	4.00	3.34	3.31	4.07
3 次 活 動	6.34	6.24	6.42	7.36	7.32	7.13	7.40	8.09	7.19
移動(通勤・通学を除く)	0.30	0.29	0.30	0.45	0.42	0.42	0.45	0.46	0.38
休養等自由時間活動 ²⁾	4.09	3.53	4.11	4.27	4.39	4.29	4.37	5.00	4.47
積極的自由時間活動 ³⁾	1.02	1.02	1.09	1.26	1.12	1.17	1.19	1.30	1.10
交際・付き合	0.29	0.26	0.19	0.35	0.36	0.23	0.40	0.34	0.25
受診・療	0.09	0.12	0.16	0.06	0.05	0.06	0.01	0.03	0.01
その他	0.15	0.23	0.17	0.17	0.18	0.16	0.17	0.18	0.17

注：1) 「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間。 2) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」及び「休養・くつろぎ」の合計時間。 3) 「学習・自己啓発・訓練(学業以外)」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」及び「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間。

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

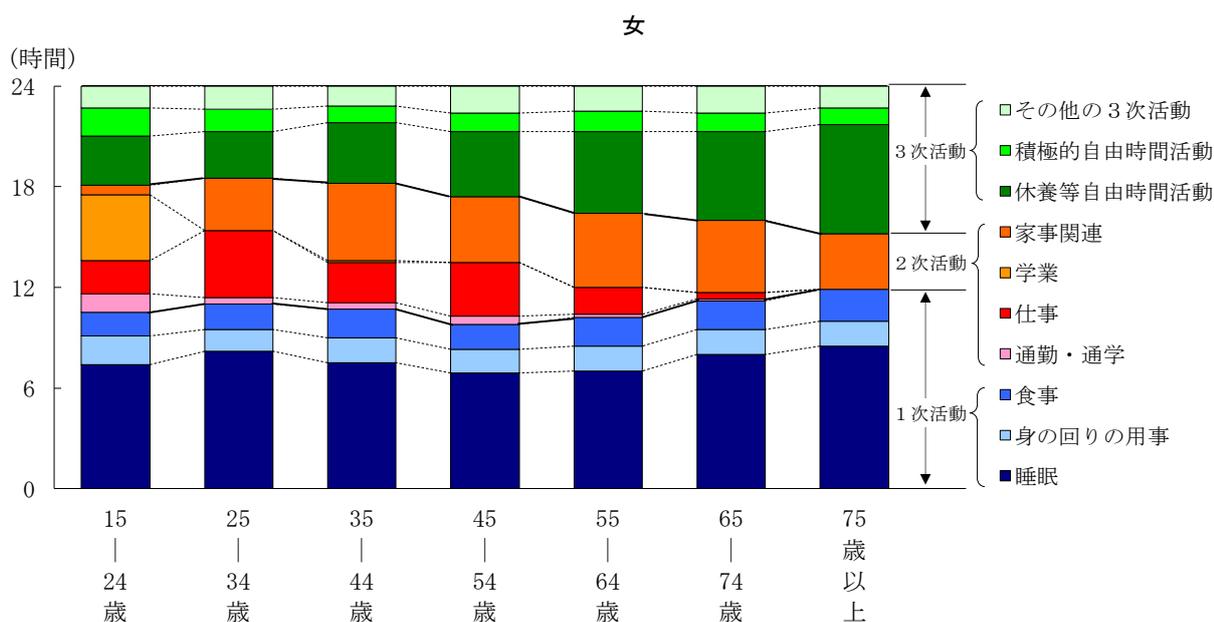
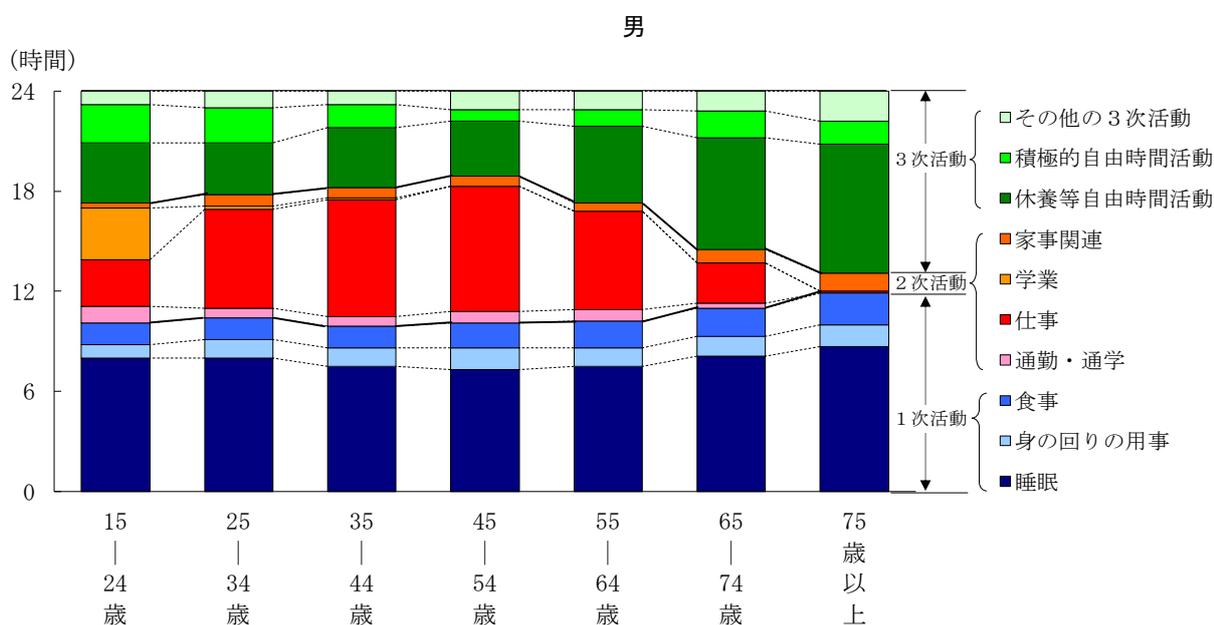
5 年齢別生活時間

3次活動時間は、定年退職等を境に長くなる傾向（第5表、第5図）

年齢別に週全体の生活時間をみると、1次活動時間は、「45～54歳」が9時間54分で最も短く、65歳以上で長くなっている。2次活動時間は、「45～54歳」が8時間7分で最も長く、65歳以上で短くなっている。3次活動時間は、「25～34歳」及び「35～44歳」がそれぞれ5時間51分で最も短く、これより年齢が低くなるほど又は高くなるほど長くなっている。

年齢別に男女を比べると、2次活動時間は、35～64歳では男性の方が長く、特に「45～54歳」では1時間以上男性の方が長くなっている。また、65歳以上では、男性は定年退職等で仕事時間が大幅に減少することから、女性の方が1時間以上長くなっている。3次活動時間は、35歳未満では女性より男性が40分以上長くなっており、この年齢層では趣味・娯楽にかかる時間が男性の方が長いことが影響している。また、65歳以上でも、男性の方が1時間半～2時間程度長く、男性は、定年退職等を境に、休息やスポーツなどにかかる時間が増えることが影響していると推測される。

第5図 男女、年齢別週全体の生活時間（平成23年）



注： 第5表参照。その他の3次活動は、「移動（通勤・通学を除く）」、「交際・つきあい」、「受診・療養」及び「その他」の合計時間である。

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第5表 年齢、男女別1日の生活時間（週全体）

行 動 の 種 類		総 数	平成23年							
			15～24歳	25～34	35～44	45～54	55～64	65～74	75歳以上	
		総 数								
1	次 活 動	10.36	10.18	10.45	10.21	9.54	10.15	11.10	11.55	
	睡眠の回りの用事	7.41	7.38	8.09	7.31	7.03	7.16	8.04	8.36	
	食事	1.19	1.20	1.12	1.19	1.20	1.19	1.23	1.25	
	食	1.35	1.20	1.25	1.31	1.30	1.41	1.44	1.54	
2	次 活 動	6.28	7.28	7.23	7.48	8.07	6.42	4.12	2.34	
	通勤・通学	0.27	1.04	0.29	0.29	0.35	0.26	0.10	—	
	仕事	3.19	2.24	4.44	4.21	5.04	3.44	1.13	0.04	
	学業	0.21	3.34	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	
	家事関連活動 ¹⁾	2.21	0.25	2.03	2.51	2.28	2.31	2.49	2.29	
3	次 活 動	6.56	6.14	5.51	5.51	5.59	7.03	8.37	9.31	
	移動（通勤・通学を除く）	0.31	0.24	0.33	0.34	0.36	0.27	0.36	0.22	
	休養等自由時間活動 ²⁾	4.23	3.10	2.56	3.38	3.38	4.42	5.53	6.58	
	積極的自由時間活動 ³⁾	1.18	1.56	1.42	1.11	0.57	1.05	1.20	1.10	
	交際・付き合い合	0.19	0.32	0.24	0.12	0.26	0.17	0.14	0.13	
	受診・療養	0.09	0.02	0.09	0.04	0.07	0.14	0.15	0.13	
	その他の	0.17	0.11	0.08	0.13	0.15	0.18	0.20	0.37	
		男								
1	次 活 動	10.25	10.04	10.19	9.54	10.01	10.16	11.02	11.53	
	睡眠の回りの用事	7.47	7.58	7.58	7.32	7.17	7.31	8.07	8.42	
	食事	1.07	0.48	1.03	1.03	1.16	1.07	1.11	1.19	
	食	1.31	1.18	1.18	1.19	1.28	1.38	1.44	1.52	
2	次 活 動	6.35	7.14	7.22	8.16	8.52	7.06	3.29	1.16	
	通勤・通学	0.34	1.01	0.35	0.35	0.45	0.40	0.17	—	
	仕事	5.05	2.49	5.53	7.00	7.30	5.56	2.22	0.08	
	学業	0.18	3.07	0.13	0.07	—	—	0.00	—	
	家事関連活動 ¹⁾	0.38	0.18	0.41	0.33	0.37	0.29	0.49	1.07	
3	次 活 動	7.00	6.42	6.19	5.50	5.07	6.38	9.29	10.51	
	移動（通勤・通学を除く）	0.28	0.17	0.31	0.32	0.34	0.26	0.27	0.22	
	休養等自由時間活動 ²⁾	4.28	3.35	3.07	3.39	3.17	4.33	6.40	7.40	
	積極的自由時間活動 ³⁾	1.25	2.20	2.06	1.23	0.44	1.00	1.37	1.23	
	交際・付き合い合	0.16	0.16	0.30	0.06	0.20	0.14	0.16	0.12	
	受診・療養	0.05	0.03	0.01	0.02	0.03	0.06	0.07	0.16	
	その他の	0.17	0.11	0.04	0.08	0.10	0.19	0.23	0.56	
		女								
1	次 活 動	10.44	10.27	11.04	10.40	9.47	10.14	11.16	11.55	
	睡眠の回りの用事	7.36	7.23	8.14	7.29	6.52	7.01	8.02	8.33	
	食事	1.29	1.43	1.19	1.31	1.23	1.30	1.31	1.28	
	食	1.39	1.21	1.30	1.40	1.32	1.43	1.43	1.55	
2	次 活 動	6.24	7.35	7.35	7.32	7.36	6.19	4.45	3.20	
	通勤・通学	0.21	1.06	0.26	0.23	0.28	0.13	0.04	0.00	
	仕事	1.58	2.02	3.58	2.23	3.14	1.39	0.22	0.02	
	学業	0.24	3.53	0.03	0.07	0.01	0.01	0.00	0.00	
	家事関連活動 ¹⁾	3.42	0.33	3.08	4.38	3.53	4.26	4.20	3.18	
3	次 活 動	6.52	5.57	5.21	5.48	6.38	7.27	7.59	8.45	
	移動（通勤・通学を除く）	0.33	0.28	0.34	0.35	0.38	0.28	0.42	0.21	
	休養等自由時間活動 ²⁾	4.19	2.52	2.46	3.37	3.53	4.51	5.19	6.32	
	積極的自由時間活動 ³⁾	1.10	1.40	1.18	1.00	1.07	1.11	1.07	1.01	
	交際・付き合い合	0.21	0.44	0.18	0.15	0.31	0.19	0.13	0.13	
	受診・療養	0.12	0.02	0.14	0.04	0.09	0.21	0.20	0.11	
	その他の	0.17	0.10	0.11	0.16	0.19	0.17	0.18	0.26	

注：1) 「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間。 2) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」及び「休養・くつろぎ」の合計時間。 3) 「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」及び「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間。

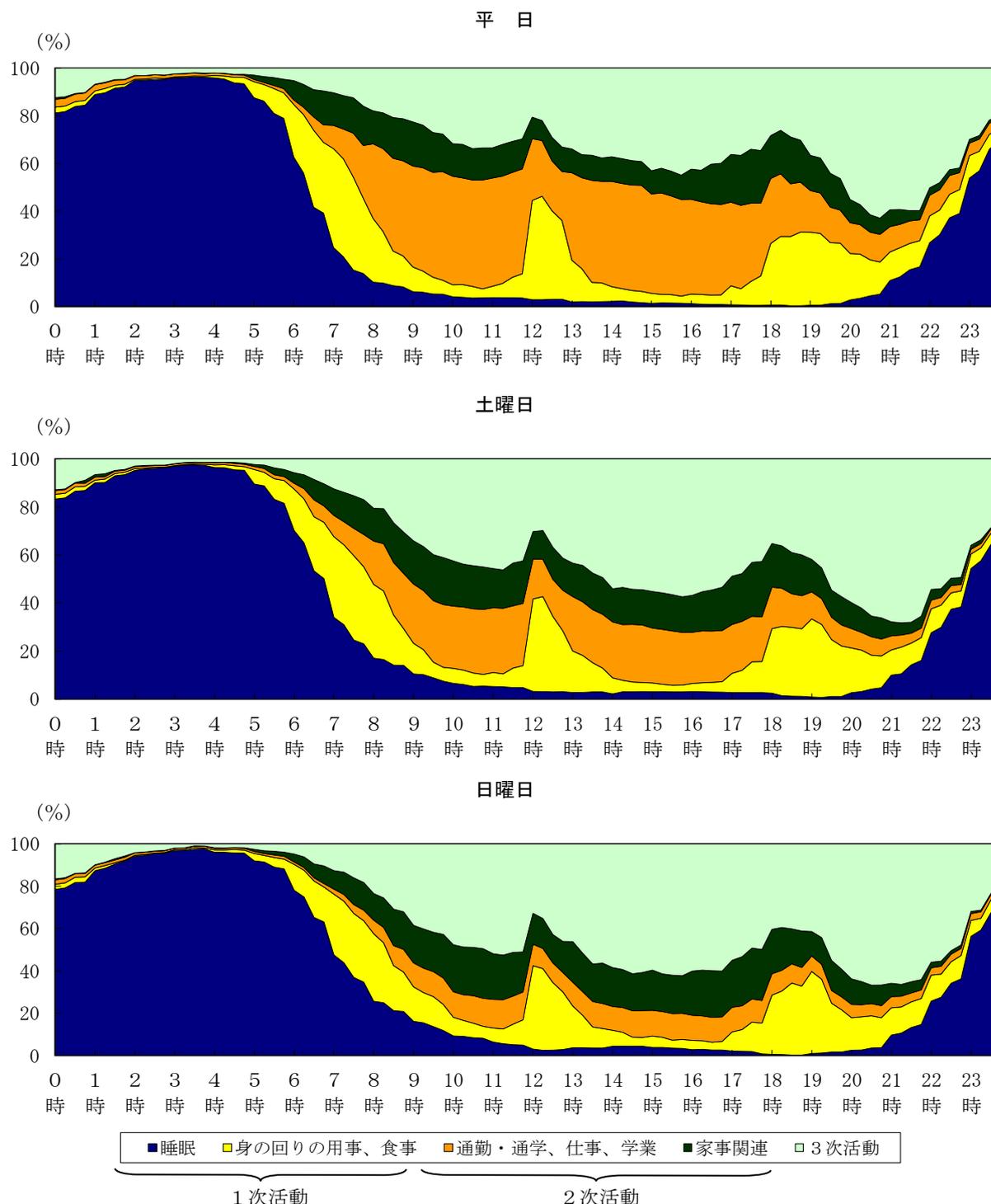
<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

6 時間帯別にみる行動者率

平日に3次活動の行動者率が5割を超えるのは20時から22時15分までの間（第6図）

15歳以上人口に占める行動者数の割合（行動者率）を曜日、時間帯別にみると、3次活動の行動者率が5割を超えるのは、「平日」は20時から22時15分までの間、「土曜日」は14時から17時までの間及び19時30分から23時までの間、日曜日は11時から12時までの間、13時15分から17時30分までの間及び19時30分から22時45分までの間となっている。

第6図 曜日、行動の種類、時間帯別行動者率（平成23年）



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

7 学習・自己啓発・訓練

「英語以外の外国語」及び「パソコンなどの情報処理」が上昇（第6表、第7図）

15歳以上人口のうち過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人の割合（行動者率）は36.3%で、平成18年（38.3%）と比べて2.0ポイント低下した。

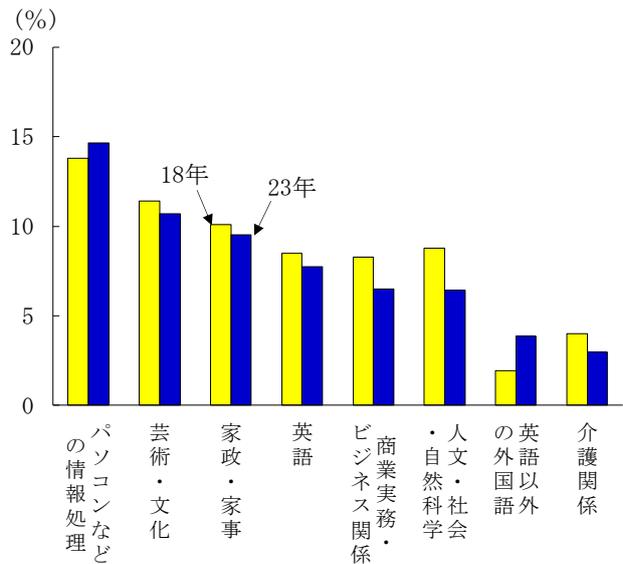
年齢別にみると、「15～24歳」が45.0%で最も高く、次いで「45～54歳」が43.1%、「25～34歳」が40.3%などとなっている。

主な学習・自己啓発・訓練の種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」が14.7%と最も高く、次いで「芸術・文化」が10.7%、「家政・家事（料理・裁縫・家庭経営など）」が9.5%などとなっている。

種類別に18年と比べると、「人文・社会・自然科学（歴史・経済・数学・生物など）」が2.4ポイント低下、「商業実務・ビジネス関係」が1.8ポイント低下、「介護関係」が1.0ポイント低下など、6種類で低下となっている。一方、「英語以外の外国語」は2.0ポイント上昇、「パソコンなどの情報処理」は0.9ポイント上昇となっている。

年齢別に18年と比べると、「英語」は「15～24歳」及び「35～44歳」で低下しており、特に「15～24歳」では6.5ポイント低下と大きく低下している。「パソコンなどの情報処理」は「35～44歳」で大きく低下しているが、他の年齢では上昇しており、特に65歳以上では大きく上昇している。「介護関係」はほとんどの年齢で低下しているが、親の介護を担う中心世代である「45～54歳」では2.9ポイント上昇と大きく上昇している。

第7図 主な学習・自己啓発・訓練の種類別行動者率



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第6表 年齢、主な学習・自己啓発・訓練の種類別行動者率

(単位 %)

年 齢	総 数	英 語	英語以外 の外国語	パソコン などの 情報処理	商業実務・ ビジネス 関係	介 護 関 係	家政・家事 (料理・裁縫・ 家庭経営 など)	人文・社会 ・自然科学 (歴史・経済・ 数学・生物など)	芸 術 ・ 文 化
総 数	38.3	8.5	1.9	13.8	8.3	4.0	10.1	8.8	11.4
15 ～ 24 歳	50.0	22.4	5.5	18.1	6.5	5.5	13.7	15.6	15.2
25 ～ 34	44.7	10.5	0.7	17.2	12.2	4.5	8.4	5.9	8.4
35 ～ 44	41.4	8.1	3.1	18.8	13.3	3.3	10.6	12.6	10.5
45 ～ 54	40.6	6.4	1.1	17.3	12.8	3.3	10.1	8.9	11.9
55 ～ 64	36.2	6.7	2.1	11.5	6.7	4.3	11.3	7.9	13.7
65 ～ 74	26.6	1.2	0.6	4.7	1.5	3.6	9.3	7.5	12.2
75 歳 以 上	18.5	0.7	—	3.5	—	2.4	5.8	1.6	6.0
総 数	36.3	7.7	3.9	14.7	6.5	3.0	9.5	6.4	10.7
15 ～ 24 歳	45.0	15.9	7.2	18.9	5.6	1.0	13.2	12.7	18.7
25 ～ 34	40.3	14.0	4.3	20.8	6.0	4.1	8.7	6.8	8.0
35 ～ 44	32.7	4.5	4.4	9.0	10.4	1.3	7.0	4.4	8.0
45 ～ 54	43.1	7.9	5.8	18.8	12.2	6.2	9.8	7.1	10.9
55 ～ 64	34.0	7.2	2.1	15.3	5.6	4.3	9.7	5.3	11.3
65 ～ 74	38.6	4.7	2.6	12.7	3.7	1.2	11.9	6.3	12.4
75 歳 以 上	22.9	3.1	2.1	8.7	—	1.7	7.9	5.4	8.8

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

8 ボランティア活動

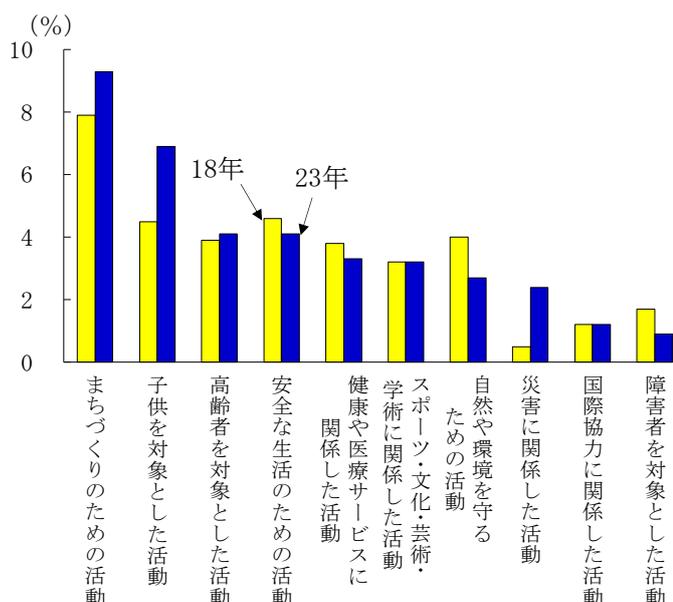
「子供を対象とした活動」、「まちづくりのための活動」、「災害に関係した活動」が大きく上昇（第7表、第8図）

15歳以上人口のうち過去1年間に何らかのボランティア活動を行った人の割合（行動者率）は23.8%で、平成18年（20.6%）と比べて3.2ポイント上昇した。

主なボランティアの種類別にみると、「まちづくりのための活動」が9.3%で最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が6.9%などとなっている。

種類別に18年と比べると、「子供を対象とした活動」が2.4ポイント上昇、「まちづくりのための活動」が1.4ポイント上昇と大きく上昇しており、20年の市民まちづくり活動促進条例、21年の子どもの最善の利益を実現するための権利条例の施行を背景に、子育てボランティアやまちづくり活動への関心が高まっていることがうかがえる。また、23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地への支援活動の影響等により、「災害に関係した活動」が1.9ポイント上昇と大きく上昇している。一方で、「自然や環境を守るための活動」は1.3ポイントの低下と、前回調査に続く低下となっており、13年の2分の1以下の水準となっている。

第8図 主なボランティアの種類別行動者率



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

女性のボランティア活動の行動者率は、男性を8.5ポイント上回る（第7表）

ボランティア活動の行動者率を男女別にみると、男性が19.2%、女性が27.7%で、女性の方が8.5ポイント高くなっている。種類別にみると、男性は「まちづくりのための活動」（8.0%）が最も高く、女性は「子供を対象とした活動」（10.6%）が最も高くなっている。18年と比べると、特に女性の「子供を対象とした活動」が4.9ポイント上昇と大きく上昇している。

第7表 男女、主なボランティアの種類別行動者率

(単位 %)

年次	総数	健康・医療・福祉関係活動	やまをのどを守るための活動	自然環境	自然環境	やをのどを守るための活動	災害関係活動	国際協力活動	国際協力活動	国際協力活動	国際協力活動	国際協力活動	総数	
													高をのど	年齢対
平成13年	25.4	6.4	4.5	2.2	3.6	2.4	9.9	3.5	5.6	1.0
18年	20.6	3.8	3.9	1.7	4.5	3.2	7.9	4.6	4.0	0.5	1.2	1.2	1.2	1.2
23年	23.8	3.3	4.1	0.9	6.9	3.2	9.3	4.1	2.7	2.4	1.2	1.2	1.2	1.2
男														
平成13年	23.1	6.1	3.1	1.8	1.9	2.9	9.8	3.8	5.2	0.9
18年	19.2	2.7	3.5	1.5	3.1	4.2	7.9	5.8	4.4	0.7	1.1	1.1	1.1	1.1
23年	19.2	3.1	3.7	0.6	2.6	3.4	8.0	3.6	2.9	2.0	1.3	1.3	1.3	1.3
女														
平成13年	27.5	6.7	5.7	2.7	5.1	1.9	10.0	3.2	6.0	1.1
18年	21.8	4.9	4.3	1.9	5.7	2.3	7.9	3.6	3.5	0.4	1.2	1.2	1.2	1.2
23年	27.7	3.4	4.5	1.1	10.6	3.1	10.4	4.4	2.5	2.8	1.0	1.0	1.0	1.0

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

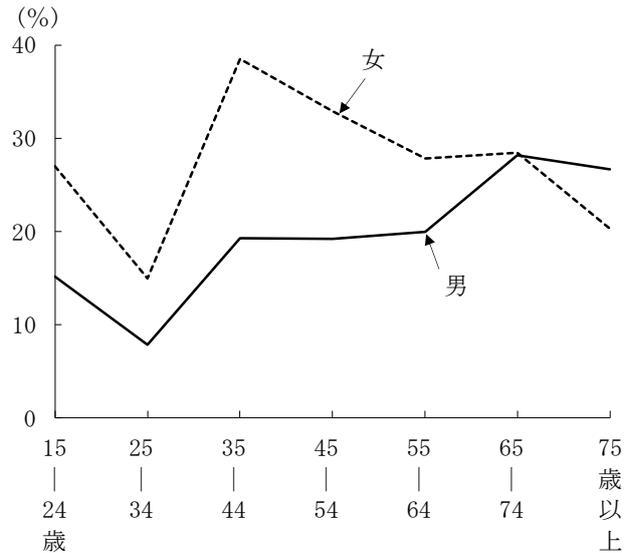
男性は「65～74歳」、女性は「35～44歳」の行動者率が高い（第8表、第9図）

ボランティア活動の行動者率を年齢別にみると、「35～44歳」が29.5%で最も高く、次いで、「65～74歳」が28.3%と、これらの年齢では3割近くになっている。一方、「25～34歳」は11.4%で、最も低くなっている。

男女、年齢別にみると、男性は、「65～74歳」が28.1%で最も高く、次いで「75歳以上」が26.7%と、65歳以上で高くなっており、「高齢者を対象とした活動」及び「まちづくりのための活動」がこの年齢で高くなっている。また、「25～34歳」は7.8%で最も低く、1割を下回っている。

一方、女性は、「35～44歳」が38.5%で最も高く、次いで「45～54歳」が32.9%と、35～54歳で高くなっており、「子供を対象とした活動」がこの年齢で高くなっている。

第9図 男女、年齢別ボランティア活動の行動者率（平成23年）



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第8表 男女、年齢、主なボランティアの種類別行動者率

(単位 %)		平成23年										
年齢	総数	健康や医療サービスに 関係した活動	高齢者 を対象とした 活動	障害者 を対象とした 活動	子供 を対象とした 活動	スポーツ・文化・学術 に した活動	まちづくり のための活動	安全な生活 のための活動	自然環境 を守るための 活動	災害関係 した活動	国際協力 関係した活動	
		総数	23.8	3.3	4.1	0.9	6.9	3.2	9.3	4.1	2.7	2.4
15～24歳	21.5	9.4	6.3	0.9	6.5	3.1	2.6	0.4	0.9	0.8	0.9	
25～34歳	11.4	0.5	1.8	—	3.1	2.5	2.0	2.0	2.8	0.7	0.3	
35～44歳	29.5	5.4	1.7	0.4	15.5	2.1	5.7	3.5	1.4	3.2	1.0	
45～54歳	26.7	4.1	3.3	1.1	11.3	3.5	7.3	6.2	3.1	4.1	2.5	
55～64歳	24.1	3.6	4.4	1.8	2.8	2.8	13.3	6.2	3.3	4.4	1.5	
65～74歳	28.3	0.6	8.4	1.6	6.4	5.1	16.4	5.7	2.9	0.4	0.9	
75歳以上	22.8	0.4	4.3	—	1.1	3.8	16.5	2.5	4.1	1.7	0.8	
男												
総数	19.2	3.1	3.7	0.6	2.6	3.4	8.0	3.6	2.9	2.0	1.3	
15～24歳	15.2	7.2	3.3	—	2.8	0.9	0.9	0.8	—	1.6	—	
25～34歳	7.8	—	2.6	—	0.7	1.6	1.2	—	1.7	0.7	—	
35～44歳	19.3	5.8	2.5	0.8	2.8	3.9	3.2	2.0	0.7	1.6	—	
45～54歳	19.2	5.6	1.0	—	4.1	2.8	5.2	6.1	5.2	5.0	4.2	
55～64歳	20.0	2.9	1.5	1.9	2.2	3.0	11.0	6.4	3.5	3.6	1.2	
65～74歳	28.1	—	10.1	0.9	5.2	5.2	18.9	5.9	4.8	—	2.0	
75歳以上	26.7	—	7.4	—	—	6.5	17.4	2.9	5.0	—	2.1	
女												
総数	27.7	3.4	4.5	1.1	10.6	3.1	10.4	4.4	2.5	2.8	1.0	
15～24歳	27.0	11.3	8.8	1.7	9.8	5.1	4.1	—	1.6	—	1.6	
25～34歳	14.9	0.9	0.9	—	5.5	3.3	2.7	3.9	3.9	0.7	0.7	
35～44歳	38.5	5.0	1.1	—	26.7	0.5	8.0	4.8	2.1	4.7	1.9	
45～54歳	32.9	3.0	5.2	2.0	17.2	4.1	9.1	6.2	1.3	3.4	1.2	
55～64歳	27.8	4.1	7.0	1.7	3.4	2.6	15.4	6.0	3.1	5.2	1.8	
65～74歳	28.5	1.0	7.1	2.1	7.4	5.1	14.4	5.5	1.5	0.8	—	
75歳以上	20.3	0.7	2.3	—	1.7	2.1	16.0	2.3	3.5	2.8	—	

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

9 スポーツ

全体としては低下傾向も、軽い運動を中心に高齢者の上昇目立つ（第9表、第10図）

15歳以上人口のうち過去1年間に何らかのスポーツを行った人の割合（行動者率）は62.1%で、平成18年(65.4%)と比べて3.3ポイント低下した。

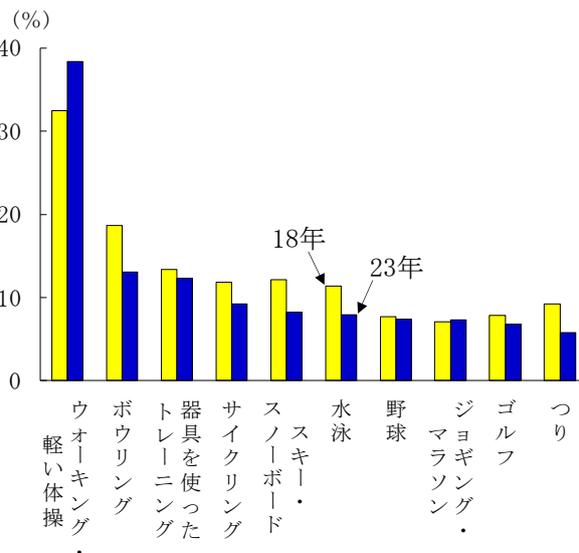
主なスポーツの種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が38.4%で最も高く、次いで「ボウリング」が13.1%、「機具を使ったトレーニング」が12.3%、「サイクリング」が9.2%などとなっている。

種類別に18年と比べると、「ボウリング」が5.6ポイント低下、「スキー・スノーボード」が3.9ポイント低下、「つり」が3.4ポイント低下、「水泳」が3.4ポイント低下などとなっており、ほとんどの種類で低下している。一方、「ウォーキング・軽い体操」は5.9ポイント上昇、「ジョギング・マラソン」は0.2ポイント上昇となっている。

年齢別に18年と比べると、「15～24歳」では低下が目立ち、特に「サイクリング」（17.1ポイント低下）、「スキー・スノーボード」（16.3ポイント低下）、「ボウリング」（14.7ポイント低下）、「野球」（11.4ポイント低下）、「水泳」（10.4ポイント低下）で大きく低下している。

一方、「65歳～74歳」では上昇が目立ち、特に「ウォーキング・軽い体操」（7.1ポイント上昇）、「機具を使ったトレーニング」（6.6ポイント上昇）、「水泳」（6.3ポイント上昇）などの上昇が大きく、高齢者の健康に関する意識の高まりがうかがえる。

第10図 主なスポーツの種類別行動者率



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第9表 年齢、主なスポーツの種類別行動者率

(単位 %)

年 齢	総 数	年										
		野球(キ ャッチ ボール を含む)	ゴルフ (練習場 を含む)	ボウリ ン グ	つ り	水 泳	スキー・ スノー ボード	サイク リ ン グ	ジョギ ング・ マラ ソ ン	ウォー キング・ 軽 い 体 操	器具を 使った トレー ニン グ	
総 数	65.4	7.7	7.8	18.7	9.2	11.3	12.1	11.8	7.1	32.5	13.4	
15 ～ 24 歳	80.7	21.5	3.7	40.6	11.8	16.5	27.9	25.9	11.5	23.0	20.3	
25 ～ 34	70.6	12.8	4.8	32.7	10.5	12.6	18.3	10.5	11.8	31.8	16.9	
35 ～ 44	72.0	10.1	9.7	22.2	10.1	18.5	17.7	16.8	8.4	35.6	18.4	
45 ～ 54	55.5	4.1	11.2	14.6	10.9	12.1	9.5	8.8	3.9	27.1	10.0	
55 ～ 64	62.2	1.7	10.8	7.8	9.9	8.3	3.7	7.9	5.5	37.7	12.3	
65 ～ 74	65.1	1.2	7.5	3.7	5.4	6.9	4.5	7.2	3.0	40.9	7.0	
75 歳 以 上	44.9	—	5.6	2.0	1.7	1.4	—	4.9	2.8	29.9	4.2	
総 数	62.1	7.4	6.8	13.1	5.8	7.9	8.2	9.2	7.3	38.4	12.3	
15 ～ 24 歳	61.9	10.1	1.6	25.9	3.1	6.1	11.6	8.8	11.6	23.8	14.9	
25 ～ 34	75.4	23.5	2.9	31.0	4.8	10.9	12.8	16.9	16.3	37.6	16.9	
35 ～ 44	64.9	10.9	6.6	12.9	8.6	8.6	11.9	11.3	8.3	37.8	11.4	
45 ～ 54	61.6	5.2	10.1	12.7	5.4	7.9	9.5	10.6	7.2	41.2	12.5	
55 ～ 64	54.9	1.3	8.4	5.7	7.8	4.6	4.6	5.8	2.0	38.7	10.2	
65 ～ 74	66.3	1.0	11.0	6.1	6.6	13.2	4.9	8.2	6.5	48.0	13.6	
75 歳 以 上	49.4	0.5	4.3	2.4	0.9	3.6	2.8	2.5	1.2	36.7	7.9	

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

10 趣味・娯楽

「スポーツ観覧」、「映画鑑賞」などが大きく低下（第10表、第11図）

15歳以上人口のうち過去1年間に何らかの趣味・娯楽を行った人の割合（行動者率）は87.4%で、平成18年（87.7%）と比べると0.3ポイント低下した。

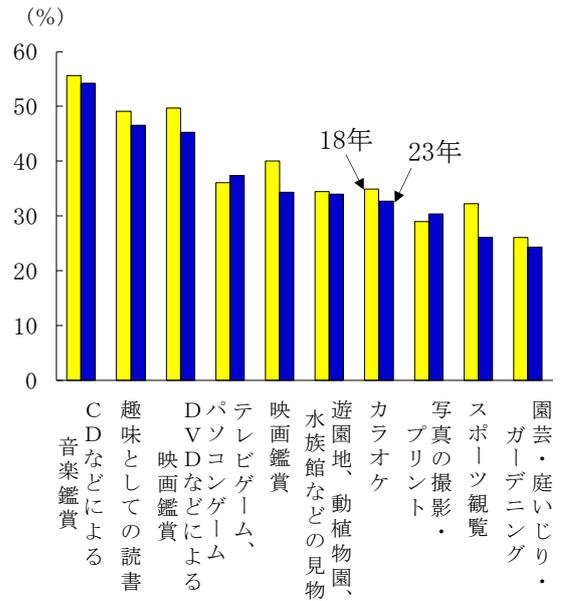
主な趣味・娯楽の種類別にみると、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」が54.2%と最も高く、次いで「趣味としての読書」が46.5%、「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」が45.3%などとなっている。

年齢別にみると、ほとんどの種類で年齢が高くなるにつれて低下する傾向がみられるが、「園芸・庭いじり・ガーデニング」では年齢が高くなるにつれて上昇する傾向がみられる。

種類別に18年と比べると、「スポーツ観覧」が6.1ポイント低下、「映画鑑賞」が5.8ポイント低下、「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」が4.4ポイント低下などとなっており、ほとんどの種類で低下している。一方、「写真の撮影・プリント」は1.4ポイントの上昇、「テレビゲーム、パソコンゲーム」は1.3ポイントの上昇となっている。

年齢別に18年と比べると「映画鑑賞」、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」及び「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」は、低い年齢層では低下が目立ち、高い年齢層では上昇が目立つ。また、「映画鑑賞」、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」、「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」及び「テレビゲーム、パソコンゲーム」は、18年は「15～24歳」が最も高かったが、23年は「25～34歳」が最も高くなっており、中心となる年齢層が上がっている。

第11図 主な趣味・娯楽の種類別行動者率



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第10表 年齢、主な趣味・娯楽の種類別行動者率

(単位 %) (単位: 総数)

年齢	総数	種類別行動者率 (%)										
		スポーツ観覧	映画鑑賞	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞	園芸・庭いじり・ガーデニング	写真の撮影・プリント	趣味としての読書	カラオケ	テレビゲーム、パソコンゲーム	遊園地、動植物園、水族館などの見物	
平成18年												
総数	87.7	32.2	40.1	55.6	49.7	26.1	29.0	49.2	34.9	36.1	34.4	
15～24歳	96.7	40.4	64.1	87.3	78.5	1.2	29.4	57.2	62.0	71.8	33.9	
25～34歳	90.9	34.7	60.5	79.1	72.6	6.4	39.8	53.3	58.5	63.0	49.5	
35～44歳	95.7	38.4	47.6	74.3	71.1	27.3	44.4	63.0	38.0	47.4	50.9	
45～54歳	88.8	40.7	46.3	59.1	56.0	29.0	32.8	45.9	21.6	31.2	35.2	
55～64歳	81.5	28.3	24.1	32.0	28.4	38.6	20.3	45.6	21.5	12.9	23.4	
65～74歳	83.2	21.0	18.6	28.1	17.0	46.4	17.2	44.0	22.4	11.2	29.7	
75歳以上	72.9	14.2	4.1	14.3	7.0	43.3	11.5	27.8	9.8	3.2	9.4	
平成23年												
総数	87.4	26.1	34.3	54.2	45.3	24.4	30.4	46.5	32.7	37.4	34.1	
15～24歳	91.0	20.4	47.5	75.5	68.0	1.5	33.8	45.1	60.3	66.1	34.8	
25～34歳	98.2	31.6	58.2	78.9	71.2	14.3	45.8	55.6	56.3	75.3	58.6	
35～44歳	95.3	29.3	34.9	67.8	58.0	12.7	45.4	54.8	37.6	56.7	52.3	
45～54歳	89.4	33.0	39.5	63.9	53.8	25.4	37.2	54.0	30.6	35.4	34.8	
55～64歳	86.3	25.5	25.3	43.3	36.1	36.1	18.4	41.8	19.3	16.1	20.1	
65～74歳	82.7	29.5	26.2	29.9	20.2	41.3	21.5	40.2	23.3	11.6	22.1	
75歳以上	64.4	8.4	12.8	22.7	11.5	31.6	9.0	30.6	11.0	8.0	12.5	

注：1) テレビ・DVDなどは除く。 2) テレビ・ビデオ・DVDなどは除く。 3) テレビからの録画は除く。 4) 家庭で行うもの。携帯用を含む。

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

11 旅行・行楽

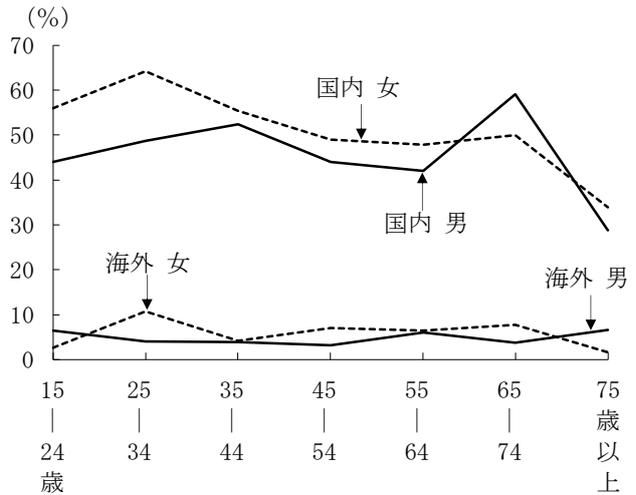
「観光旅行」は、男性は年齢の高い世代で、女性は若い世代で高い（第11表、第12図）

15歳以上人口のうち過去1年間に何らかの旅行・行楽を行った人の割合（行動者率）は74.6%となっている。男女別にみると、男性は72.0%、女性は76.7%となっており、女性が4.7ポイント高くなっている。

旅行・行楽の種類別にみると、「行楽（日帰り）」は58.5%、「旅行（1泊2日以上）」は64.2%となっている。

また、「旅行（1泊2日以上）」のうち観光旅行をみると、国内は48.7%、海外は5.4%となっている。これを男女別にみると、国内は男性が46.3%、女性が50.7%、海外は男性が4.8%、女性が5.9%となっており、国内、海外とも女性の方が高くなっている。年齢別にみると、国内は、男性は「65～74歳」、女性は「25～34歳」で高くなっており、男性は年齢の高い世代で、女性は若い世代で高くなっている。海外は、女性の「25～34歳」が特に高く、10.7%と1割を超えている。

第12図 男女、年齢別観光旅行の行動者率（平成23年）



<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第11表 男女、年齢、旅行・行楽の種類別行動者率

年齢		総数	行楽 (日帰り)	旅行（1泊2日以上）							
				総数	国内			海外			
					総数	観光旅行	帰省・訪問などの旅行	業務出張・研修・その他	総数	観光旅行	業務出張・研修・その他
		総数				数					
総数	74.6	58.5	64.2	63.6	48.7	33.4	15.1	6.5	5.4	1.9	
15～24歳	77.5	56.8	68.9	67.7	50.5	34.0	11.6	5.3	4.5	3.0	
25～34歳	80.3	67.9	74.6	74.1	56.5	38.1	25.7	8.2	7.4	0.8	
35～44歳	80.1	69.6	69.7	69.4	54.0	43.7	23.1	5.3	4.1	2.3	
45～54歳	78.3	62.7	69.5	68.8	46.8	38.8	18.9	8.5	5.4	5.2	
55～64歳	73.4	52.2	61.7	60.7	45.1	27.3	14.3	7.0	6.3	1.3	
65～74歳	76.3	54.7	65.2	64.7	54.0	35.8	4.4	6.4	6.0	0.3	
75歳以上	52.6	41.4	36.5	36.5	32.0	12.3	2.0	4.4	3.6	0.9	
		男				女					
総数	72.0	54.6	63.3	62.5	46.3	32.7	25.8	6.6	4.8	2.9	
15～24歳	69.5	44.6	61.2	60.2	44.1	35.7	10.5	6.5	6.5	1.6	
25～34歳	71.3	58.3	66.1	65.0	48.7	34.7	38.9	5.7	4.0	1.7	
35～44歳	76.2	67.3	66.1	65.5	52.5	43.0	37.6	6.5	3.9	4.3	
45～54歳	75.8	63.5	69.2	68.5	44.0	29.6	35.8	8.3	3.3	7.4	
55～64歳	74.0	46.9	65.3	63.8	42.0	29.6	26.3	7.6	6.1	2.7	
65～74歳	77.5	54.4	70.0	70.0	59.1	36.7	10.2	4.6	3.8	0.8	
75歳以上	51.5	38.4	35.3	35.3	28.8	13.9	4.3	6.6	6.6	—	
総数	76.7	61.7	65.0	64.5	50.7	33.9	6.1	6.5	5.9	1.1	
15～24歳	84.4	67.4	75.6	74.2	56.0	32.4	12.5	4.1	2.7	4.1	
25～34歳	89.1	77.3	82.9	82.9	64.2	41.5	12.9	10.7	10.7	—	
35～44歳	83.6	71.5	73.0	73.0	55.4	44.4	10.3	4.2	4.2	0.5	
45～54歳	80.2	62.1	69.8	69.1	49.0	46.2	5.1	8.6	7.1	3.3	
55～64歳	72.9	56.9	58.4	57.8	47.9	25.2	3.4	6.5	6.5	—	
65～74歳	75.3	54.9	61.5	60.7	50.0	35.1	—	7.7	7.7	—	
75歳以上	53.3	43.2	37.3	37.3	34.0	11.3	0.6	3.1	1.7	1.4	

<資料> 市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

調査の概要

1 調査の目的

社会生活基本調査は、生活時間の配分や余暇時間における主な活動など、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的としている。

2 調査の時期

調査は、平成23年10月20日現在で行った。ただし、生活時間の配分についての調査は、10月15日から10月23日までの9日間のうちから、調査区ごとに指定された連続する2日間としている。

3 調査の対象

平成17年国勢調査調査区のうち、指定する調査区（全国で約6,900調査区）内に居住する世帯のうちから選定した約8万3千世帯の10歳以上の世帯員約20万人を対象としている。

4 用語解説

- (1) 1次活動 …………… 睡眠、食事などの生理的に必要な活動
睡眠、身の回りの用事、食事
- (2) 2次活動 …………… 仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格が強い活動
通勤・通学、仕事（収入を伴う仕事）、学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動）、家事、介護・看護、育児、買い物
- (3) 3次活動 …………… 余暇活動など各人が自由に使える時間における活動
移動（通勤・通学を除く）、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎ、学習・自己啓発・訓練（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動・社会参加活動、交際・付き合い、受診・療養、その他（求職活動、墓参りなど）
- (4) 平均時間 …………… 1人1日当たりの平均行動時間（行動をしなかった人を含む全員についての平均）で、曜日別平均及び週全体平均がある。
 - ・曜日別平均 …… 調査の曜日ごとに平均値を算出したもので、「平日」（月～金曜日の平均値）、「土曜日」及び「日曜日」の3項目がある。
 - ・週全体平均 …… 次の式により、曜日別結果を加重平均したもの
 $(\text{平日平均} \times 5 + \text{土曜日平均} + \text{日曜日平均}) \div 7$
- (5) 学習・自己啓発・訓練 …………… 個人の自由時間の中で行う学習・自己啓発・訓練で、社会人が仕事として行うものや、学生が学業として行うものは除く。
- (6) スポーツ …………… 個人の自由時間の中で行うスポーツをいう。学生が体育の授業で行うものや職業スポーツ選手が仕事として行うものを除く。
- (7) 趣味・娯楽 …………… 個人の自由時間の中で行うものをいう。
- (8) ボランティア活動 …………… 報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行う活動をいう。活動のための交通費など実費程度の金額の支払いを受けても報酬とみなさず、その活動はボランティア活動に含む。なお、ボランティア団体が開催する催し物などへの単なる参加は除く。
- (9) 旅行・行楽 …………… 仕事や学業などを含めた旅行・行楽を対象としている。旅行とは、1泊2日以上にわたって行うすべての旅行をいう。行楽とは、日常生活圏を離れて宿泊を伴わず半日以上かけて行うものをいい、夜行日帰りを含む。